

地球惑星科学委員会地球惑星科学次世代育成分科会（第 26 期・第 4 回）

議事要旨

出席者：堀利栄、西弘嗣、張 勁、掛川武、小口高、浅井歩、大朝由美子、大路樹生、大谷栄治、木村学、久家慶子、黒柳あずみ、杉田文、田近英一、西山忠男、山岸明彦、山田育穂、佐々木晶、薮田ひかる

オブザーバー

湯口貴史、西尾嘉朗、山本啓司、波多野恭弘、杉田精司、山田伸之、寺崎英紀、齋藤武士、井上徹、大和田正明、梅田浩司、久木幸治、大藤弘明 伴雅雄、北和之、栗原敏之、田口文明、杉谷健一郎、倉本圭、金子克哉、亀尾浩司、宮崎真一、高橋幸弘

議 事

1. 日 時 令和 6 年 7 月 8 日（月）13：00～15：00

2. 会 場 オンライン会議（ZOOM）

3. 議 題

（1）2024 年専攻長・学科長アンケート結果について

以下の点について特に詳細な情報共有がなされた。

- ・ 学科統合・改組などの傾向やクロスアポイントメントの東大の活用例。
- ・ 大学院修士課程充足率は 100% くらいだが博士課程は 40～80% くらいになっており、博士修了学生の一般企業就職も多くなっていると報告された。
- ・ 学部入試時の地学受験コースの現状、教育における AI の活用、高大連携の実施状況（鹿児島大における先取り単位習得制度など）などの紹介。
- ・ 大学の入学金廃止の可能性、博士学生の経済的処遇改善、学術会議の分野別質保証の提言に関するその後の動き、リカレント教育の積極的活用実態などに関しても紹介。

（2）専攻長・学科長から日本学術会議へのご意見

以下の問題提起や情報共有がなされた。

- ・ 博士学生の採用に関して企業のマインドを変える必要性。
- ・ 女子大学院学生が修士段階で研究者を諦める傾向があり、その対応。
- ・ 修士 1 年時における企業インターンシップ問題に対する対応。
- ・ 社会人博士学生の受け入れ上の問題点に関しての情報共有。

- ・ 地方大学における地球科学系の学科存在問題に対する対応。
- ・ 運営費交付金や人件費削減による学部教育運営に対する支障とその対応。さらに公立大学や私立大学での状況把握の必要性。

（３）地球惑星科学系博士人材育成について

文科省の博士人材育成構想に関する説明があり、博士学生に対しての経済支援の長期保証の課題や、ジョブ型インターンシップによる研究への弊害などが指摘された。

（４）その他（見解等の作成について）

学部や大学院での外国人留学生の受け入れ状況の把握や将来的対応についての議論や、大学院重点化に伴う博士定員増が、そもそも良かったのかなど、その分析の必要性などの意見が出された。

4. 配布資料

なし